

和歌山城と茶道とお菓子めぐり

江戸時代、和歌山は表千家家元が代々紀州藩茶頭をつとめ、茶の湯の文化が開創した全国有数の城下町でした。千家流の茶道は、いまも和歌山市を中心としたです。和歌山城をみながら、紀州の茶の湯文化とお菓子の文化を訪れる歩き方です。

① 岡口門

和歌山城の南東に位置。浅野氏の時代に大手門として建設。浦川新屋と呼ばれる塔門に改修された。椎名などは失われたが、門と石垣が往時を偲ばせる。門と鏡原のある土塀は国重文化財。門の脇壁の上に天守閣が見える。

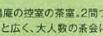


② 岡公園茶室

夜雨荘(やうそう)、芦鶴庵(ろかくあん)・洞蘭軒(とうらんけん)の3つの茶室がある。故松下村松の寄贈、にじり口や墨窓庭など、代表的な茶室の内装である。



洞蘭軒。小間の芦鶴庵と、広間の松雲軒(しょううんげん)の2つの茶室がある。故松下村松の寄贈、にじり口や墨窓庭など、代表的な茶室の内装である。



問合せ先は和歌山県整備企画課 TEL:073-435-1044
③ 和菓子處 ふく福団子屋形店

④ プランジャーイノウウ

⑤ 紀州蒲表千家屋敷跡

千利休の道統を伝える表千家は、寛永19(1642)年に4代江戸宗家が出来て以降11世を跨ぎまで代代家元の紀州藩の茶頭をとめた。紀州屋敷は三木町にあり、その跡に建つ碑が歴史を語る。



三木町
三木町は江戸時代の城下町。茶道具の「三木町縄」は江戸が屋敷を看護した資材の残り物で作られたのが由来になっている。

⑥ 諏訪園

東ふくい門にある文久2(1862)年創立の老舗。楊枝を白羅扇をはじめ大きめ茶葉が飾る。扱う茶葉は京都宇治の茶園で製造されるもの。和歌山県産の煎茶や普茶の川添茶や色川茶も販売。店内では、抹茶を使ったパフェも味わえる。
定休日:火曜日 営業時間:10時~19時(カフェは11時から)



⑦ 番茶屋

ぶくい門の入りにあるお茶屋。開業は正13(1924)年。豊富な種類のお茶が店舗に並ぶ。紀州名物・茶粥の缶詰は有名。また「熊野ほし茶ラテ」や「白浜紅茶ラテ」(各税込525円)はおすすめの一品。
定休日:火曜日 営業時間:9時~19時



⑧ 総本家酸河屋

⑨ 葉子司 鶴屋忠彦

⑩ パティスリー・リヨン

B 和歌山城 紀州藩の時代とお寺めぐり

和歌山城から南北へ、道沿いには多くの寺院が建ち並ぶのが寺町通り。観音寺ではありませんが、紀州史の物語がいくつもあるのが、お城の南側地です。

① 岡口門

正徳2(1712)年、5代藩主徳川吉宗のとき設置。和歌山城下の時を刻んだ。金継は2階建て、堂宇の高さは8メートルあまり、鍾は大仏殿の鐘で使われた青銅製大錐を直鉄したものである。指定文化財。



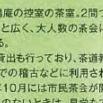
② 岡山時鐘堂

正徳2(1712)年、5代藩主徳川吉宗のとき設置。和歌山城下の時を刻んだ。金継は2階建て、堂宇の高さは8メートルあまり、鍾は大仏殿の鐘で使われた青銅製大錐を直鉄したものである。指定文化財。



③ 國立博物館・県立美術館

博物館は、和歌山県の原始、古代から近現代までの文化財や貴重品を展示する施設。江戸時代の展示室は、紀州徳川家のからくり大名行列の巻きや史料などを、藩の御厨焼として使われた陶器類、男山焼などの茶碗や香合が常設展示されている。博物館 TEL:073-436-8676 美術館 TEL:073-436-8690



④ 德川吉宗像・徳川吉宗誕生地・碑

和歌山県立博物館・美術館下に建つ馬に乗る愛嬌らしい徳川吉宗の銅像。
貞享元(1684)年、吉宗が生まれた「御誕生長屋」跡。→



⑤ 和歌山大赤門

和歌山大学は1949(昭和24)年設置。教育、経済2学部でスタートした。キャンパスは経済と高専、教育学部は吹上、赤と白の美しいレインボーゲンの門は吹上キャンパスのシンボルだ。大学が統合移転後、門は保存され、いまだ附属小学校の正門となっている。



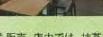
⑥ 和菓子處 ふく福団子屋形店

和歌山県立博物館・美術館下に建つ馬に乗る愛嬌らしい徳川吉宗の銅像。
貞享元(1684)年、吉宗が生まれた「御誕生長屋」跡。→



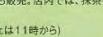
⑦ 国名勝 紅葉渓庭園

西の丈殿庭に築かれた庭園。四季折々に植物が生い茂り、内堀に約50種の「鳴魚木」が浮いて、紅葉橋や千葉、石橋を構する。御橋廊下(平成18年復元)の九段つなぐ。



⑧ 紅松庵

紅葉渓庭園にある茶室。木造漆喰葺の屋根に覆われた数寄屋造りで、小柴垣と見え込みに面されて庭の苔が美しい。茶座敷、立札があり抹茶をいたがける(和菓子付き、一般450円)。
庭園入り料金は無料 時間:9:00~17:00 紅松庵は16:30まで
年中無休(12/29~1/30は休み)TEL:073-431-8548



茶の湯文化 表千家と徳川治室

茶道の三才は表千家、千家、武者小路千家、表千家元が紀州川家の茶頭を代々つとめる紀州は茶の湯が盛んで、徳川治室(10代藩主)の時代に大きく花開く。その頃紀州で造られた茶碗や茶道具に、京都・奈良美術や京東京・二井記念美術館で会えることができる。表千家と表千家不善の表門(表裏)は、お宝が贈られた。
江戸時代、紀州が生んだ茶人は江戸千家流祖川上不白がいる(新宮茶人)。不白の父は表千家7代如心斎公。左である。江戸後期は、茶の湯文化が町人階級にまで広がった時代でもあった。



⑨ 公園

李真栄・梅深彌影碑
李朝子は紀州藩に仕えた僧侶。親への奉行で説いて「父母状」は薄の教育指針。
百間長屋跡
現在の作事所の職人が居住、約百間の長屋が建っていたという。
明治時代の外相、陸奥宗光の銅像も。



⑩ ノルン菓子店・喫茶モラ

表千家の心斎公の隣にあります。左である。江戸後期は、茶の湯文化が町人階級にまで広がった時代でもあった。

C 和歌山城 地名・石垣をめぐる

① 堺筋
日蓮宗の寺、初代蓮主住持の妻珠林院、吉宗の妻初代蓮主住持の寺。



② 法泉寺

豊臣秀吉の子、秀次が建立した。本尊は十一面觀音菩薩。創建は1570年。曹洞宗。



③ 恵運寺

曹洞宗。創建は元和5(1619)年。「えいいうんじ」と読み、紀州恩者名古三十郎正澄の墓があるところが英國の学者の調べでわかったのは、2011年のこと。



④ 憂窓寺

元和5(1619)年に徳川賴宣が紀州人の釋・高僧として知られる慈眼圓の寂廟寺。西門は豊臣秀吉の墓である。慈眼圓の墓がある。「毘盧窟」の名がある。



⑤ 大恩寺

現在は淨土宗の寺。本尊は阿彌陀如来で、本堂は法然上人。紀州藩の本草学者小原朝潤も祇園(和歌山県指定文化財)。



⑥ 無量光寺

文政12(1829)年に10代藩主徳川治室の命により建立された浄土宗の寺。本尊は阿彌陀如来。現在の建物は1998(平成10)年の建築。「首大仏」と呼ばれるは、高さ約3メートルの頭だけのお釈迦。



⑦ 三光寺

和歌山市嘗新祭に隣接する西山淨土宗の寺。本尊は阿弥陀如来。創建は文政2(1802)年。現存の建物は2002(平成14)年に建立。



⑧ 瑞瑚寺

曹洞宗の寺。他の名は「三五寺」、天正13(1585)年、和歌山城主をつとめた桑原重春が和歌山市和田から移築。珊瑚でできた數珠を寄進した。以後「瑞瑚寺」と。山門は當時のもの。安産を願う女性たちに信仰が高い。



⑨ 刺田比古神社

「延喜式神名帳」に記載されている古社で、和歌山城守護の神社。徳川吉宗が誕生したとき、神の神主が坂親となつたことから、開祖出世の神社として祀られる。



⑩ 公園

李真栄・梅深彌影碑
李朝子は紀州藩に仕えた僧侶。親への奉行で説いて「父母状」は薄の教育指針。
百間長屋跡
現在の作事所の職人が居住、約百間の長屋が建っていたという。
明治時代の外相、陸奥宗光の銅像も。



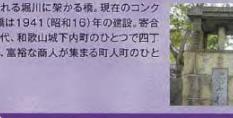
⑪ ノルン菓子店・喫茶モラ

表千家の心斎公の隣にあります。左である。江戸後期は、茶の湯文化が町人階級にまで広がった時代でもあった。



D 和歌山城 東西南北めぐる

① 水門吹上神社
「えみすひす」で有名な野町にある神社。正月の十日戎は大勢の人でにぎわう。



吹上、水門の2つの神社が合祀された神社で、「吹上」の地名とともに古くから知られた神社だった。大己貴命、御子絆神を祀る。



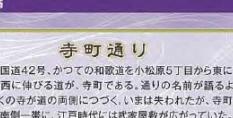
② 寺北橋
寄合町を流れる源川に架かる橋。現在のコンクリート製の橋は1941(昭和16)年の建設。寄合町は江戸時代、和歌山城下町のひとつで四丁町と呼ばれ、富貴な商人が集まる町のひとつだった。



③ 堀・石垣
和歌山城の石垣は、時代によって石が異なり、積み方も変わっている。砂の丸広場を構成する高石垣、ほぼ垂直に積んだ線がみごとな。



④ 追道門
砂の丸の西に建つ朱色の門。門を出て道(現在の国道42号)を出て馬籠の橋古の橋を行われたところから、門の呼び名になった。高麗門形式で、朱色は覆よけの色。初代藩主賴宣の時代の門で、1984(昭和59)年に京体修復が行われた。



⑤ 爆弾門
砂の丸の西に建つ朱色の門。門を出て道(現在の国道42号)を出て馬籠の橋古の橋を行われたところから、門の呼び名になった。高麗門形式で、朱色は覆よけの色。初代藩主賴宣の時代の門で、1984(昭和59)年に京体修復が行われた。



⑥ 爆弾門
砂の丸の西に建つ朱色の門。門を出て道(現在の国道42号)を出て馬籠の橋古の橋を行われたところから、門の呼び名になった。高麗門形式で、朱色は覆よけの色。初代藩主賴宣の時代の門で、1984(昭和59)年に京体修復が行われた。



⑦ 爆弾門
砂の丸の西に建つ朱色の門。門を出て道(現在の国道42号)を出て馬籠の橋古の橋を行われたところから、門の呼び名になった。高麗門形式で、朱色は覆よけの色。初代藩主賴宣の時代の門で、1984(昭和59)年に京体修復が行われた。



⑧ 海善寺
西山淨土宗の寺、明応年間(1492~1501)室町幕府の足利将軍の娘の僧侶によって開かれたといわれる。江戸時代には本坊をはじめ薬院、觀音、般舟の堂、鐘楼などが建ち並び、子院などをいくつももつする大寺だったといわれる。



紀州藩に住む了覺院の墓碑や国学者加納詳平の墓が江戸時代の紀州で伝えられる。



⑨ 妙慶寺 ⑩ 養善寺 ⑪ 淨尊寺 ⑫ 善能寺
いずれも淨土真宗本願寺派の寺。



西山淨土宗の寺、明応年間(1492~1501)室町幕府の足利将軍の娘の僧侶によって開かれたといわれる。江戸時代には本坊をはじめ薬院、觀音、般舟の堂、鐘楼などが建ち並び、子院などをいくつももつする大寺だったといわれる。



紀州藩に住む了覺院の墓碑や国学者加納詳平の墓が江戸時代の紀州で伝えられる。



⑫ 善能寺
和歌山市役所14階から



和歌山城 東西南北めぐる
和歌山城から歩く
城下町とお菓子めぐり

虎伏山の緑の森のなかにそびえる和歌山城の白塗の天守閣。東西両南北、見る方向によって姿を変え、漏る光や時間によって表情も変えて、見るのは飽きさせません。江戸の城は武装で燃え、眼下に広がる城下町の経過とともに姿を消し、近代的な街並みが目立ちます。

しかし、和歌山城から周辺を歩いてみると、歴史を語る、風景の物語があります。城から半径300メートルあまりの城下町の散策マップを作りました。



和歌山大学経済学部 鈴木研究室
2014年3月発行



真砂丁から



和歌山城から歩く 城下町とお菓子めぐり

Aコース Bコース
Cコース

「ヨーロッパ菓子のアトリエ」。代表的な菓子は15種類のタルト。イチゴ、イチジク、デコボンなど季節の果物が飾るのはタルト・オ・フルーツ。イチゴを散り始めた季のタルト。野菜を使ったキッシュはフランスの家庭の味。「しっかりと焼きこんだ」堅めの器のクッキー、「焼き菓子は噛んで味わって」とオーナー。隣には直営のティールーム「ガラバティー」がある。

定休日:月曜日 営業時間:9:30~19:00 喫茶は12:00~22:00

電話:073-433-6377



「跡らむのがつくりたい」と1954年に創業したケーキ屋さん。それ以来は煎餅屋だった。「サブール」はフランス語で「風味」。見た目だけではなくおいしいものをどうぞ! こだわりを表す。おすすめは、直径12cmほどもある大きなショーケース「キャビン」。もちろんケーキ類は豊富。こだわりのコーヒー、水を無料で提供、店内でも販売へられる。

年中無休 営業時間:9:00~21:00

フリーダイヤル:0120-226 557



和歌山市役所の西隣に2003年開店した菓子店。もちろんとした独特的な生地が特徴的な「紀州太鼓」や、大根餅をハイ生地で包んだ新感覚の「ふくふくパイ」など、ご主人こだわりの品が並ぶ。おすすめは、抹茶のロールケーキのなかにわらび餅が入った「抹茶わらびロール」。和洋の調和の一品。店内で食べるのも可。

定休日:火曜日 営業時間:8:00~19:00

電話:073-426-3250



岡口門の目の前にあるけー牛屋。1Fはショーケースのケーキを買え、2Fの喫茶ではゆっくりくつろげる。一律の値段でできるオーダーメイドのケーキやショコラート生地でクリームがのっているお酒のいたさバランがおすすめ。

定休日:水曜日

営業時間:10:00~20:00 喫茶は16:00~19:00

電話:073-432-3060



ふく福
団子

三年坂通りの角に位置する和菓子屋。黒みつ団子や黄粉をふしたよもぎ、みたらし団子が豊富。どごしがいい、温みつ蒸天は店主のイチオシ。種類が多く、1つからでも買えるので店内に入りやすい。

定休日:正月と盆明け 営業時間:9:00~18:30

電話:073-425-5168



和歌山市四番丁の尾根通りに面する白が基調の小さなパン屋さん。売れ筋は焼き立てのパン! フレンチ菓子まであり、クロワッサンはフランス人留学生によく好評。時間帯に合わせて店に出すパンを変えるのも特徴。イトインスペードもある。

定休日:日・月曜日 営業時間:8:00~19:00 電話:073-424-8022



創業は寛政2年(1780年)、550年以上続く和菓子の老舗。店内には江戸時代の豪華な菓子型や城中に菓子を納めた「行商」(レプリカ)を展示。羊羹の品ぞろえが豊富なもの当然、駿河屋は本焼羊羹を最初に作った店といわれる。本ノ字種類や和歌浦駿河など歴史のある菓子が多いのは、さすが老舗。

不定休 営業時間:平日、土曜日9:00~18:30、日祝9:00~18:00

電話:073-431-3411



一ノ橋から徒歩1分。名物の「戸辺となか」は鶴の意匠をあしらったもので柚子餡、粒餡、白餡の3種類の餡がたっぷり詰まっていてとても美味しい。また、一週間ごとに変わる季節の上生菓子は茶道関係者を中心に入気がある。和歌山城紅葉渓園内の茶室「紅松庵」でも食べられる。

定休日:火曜日 営業時間:8:00~19:30 電話:073-431-0116



ショーケースを飾る生菓子、焼菓子。目を引くのがショコラの数々。10層のチョコレート菓子はパリ・オペラ座をイメージ。ショコラ・シャンティは大人の味。茶道をたしなむオーナーが薄茶に合うう品に選んだのはミロワール・ショコラ、ローチケの良さが特徴。食べることも可能な店内に流れる音楽が特に誘う。十番丁のビルの1階。

定休日:日曜日 営業時間:12:00~19:30

電話:073-433-7655